



週)報

2013~2014年度))) R I会長)ロン)D・バートン)
『ロータリーを实践して)みんなに豊かな人生を』
))))))))))第 2570 地区ガバナー)中)井)眞)一)郎)

国際ロータリー
第 2 5 7 0 地区

狭山中央ロータリークラブ

〔例会場〕狭山東武サロン〒350-1305) 狭山市入間川 3-6-14)TEL)04-2954-2511
〔事務所〕〒350-1305)狭山市入間川 1 -24-48)TEL)04-2952-2277)FAX)04-2952-2366
<http://www1.s-cat.ne.jp/schuohrc/E> - mail:schuohrc@p1.s-cat.ne.jp
会長)栗原憲司) 会長エレクト)稲見) 淳))副会長)高田虎光) 幹事)宮野ふさ子

〔第 3 グループ内の例会日〕 狭山(金)、新狭山(月)、入間(木)、入間南(火)、飯能(水)、日高(火)、狭山中央(火)
所沢(火)、新所沢(月)、所沢西(水)、所沢東(木)、所沢中央(月)

第 957 回(7 月 19 日)例会の記録

国際ロータリー第 2 5 7 0 地区 中井眞一郎ガバナー公式訪問



2013年7月19日 2013~2014年度 中井眞一郎 ガバナー公式訪問 於 狭山東武サロン

点 鐘 栗原憲司会長
合 唱 国歌斉唱、奉仕の理想
第 2 副 S A A 松浦君、宮岡君
卓話講師 国際ロータリー第 2570 地区
ガバナー 中 井 眞 一 郎 様
ビジター 国際ロータリー第 2570 地区
第 3 グループガバナー補佐
室 伏 秀 樹 様

出席報告

会員数	出席者数	出席率	前回修正
34 名	26 名	73.33%	78.13%

会長の時間

栗原(憲)会長

本日はガバナー公式訪問にあたりまして、皆さんご出席頂きありがとうございました。また中井眞一郎ガバナー、室伏秀樹ガバナー補佐、細井地区幹事様、今日は色々ご指導の程、宜しくお願い致します。

7 月に入りまして暑い日が続きますが、先日はガバナー補佐訪問、大変勉強になりました。そし



て引き続きまして本日は、ガバナー公式訪問の日となりました。狭山中央ロータリークラブも昨年度20周年を終えまして、本年度は21年目となり、成人式を終え、これから社会に出て活躍していく年になると思います。その年に会長に就任致しまして、大変な重荷を背負っている感じが致しますが、1年間皆様よろしくお願い致します。

RI会長のロン D.バートン氏は「ロータリーを実践し、みんなに豊かな人生を」というテーマを掲げております。これはロータリーを通して、各人生を豊かにしようという前向きな姿勢であり、共感致しております。そしてこれに引き続きまして、中井眞一郎ガバナーは「変革・継続・簡素・充実のバランスのとれた地区の運営を目指します。」と言われております。これに基づきまして、狭山中央ロータリークラブは本年度の方針と致しまして、次のことを掲げさせて頂きました。

クラブ管理運営と致しましては、例会運営を楽しいものにし、親睦を充実させ、クラブの活性化を図りたいと思っております。また会員増強につきましては、昨年度6名の増加で活気がみなぎっておりますので、それに引き続き今年も増強に力を入れていきたいと思っております。職業奉仕と致しましては、ロータリーの原点でありますので、実践して活動していきたいと思っております。社会奉仕は、地域フリーマーケットに参加し、収益金を福祉施設や震災復興に充てたいと思っております。国際奉仕はモンゴル国干ばつ防止プロジェクトを引き続き進めていきたいと思っております。ロータリー財団、米山記念奨学につきましては、寄付を予定通り行うものと致します。その他の部門も継続的に取り組んでいくという方針を立てさせて頂きました。

先ほど中井ガバナーと室伏ガバナー補佐と会長幹事懇談会をさせて頂きました。ロータリーの規定審議会におかれまして、色々の変更があったことを示唆されまして、それに基づいてこれからクラブの運営を聞きたいと思っております。

ロータリーも長い歴史を持つものであり、規定審議会におかれましては、定款を少しずつ変革し、流れているものと思われれます。我々1クラブと致しましては、中井ガバナーの方針と情報を頂きまして、それに基づき今年の運営を行っていききたいと思っております。皆様宜しくお願い致します。まだ年度が始まったばかりで公式訪問という、ロータリーでは一番大変な日を迎えて、実際に行動はしていない状態、予定のみであります。予定を立てたことは実践をして、一年間の充実した活動をしていきたいと思っております。ロータリーの友7月号を開きますと、ロン D.バートン氏の「ロータリーを実践し、みんなに豊かな人生を」というテーマについて文章がのっておりますので、一部紹介させて頂きます。

「私たちは、推薦され、その推薦を受諾することを選択してロータリーに入会しました。そして、

入会した後も、日々、選択を行っています。それは、ロータリー・クラブの単なる一会員であるか、真のロータリアンとなるか、の選択です。ロータリアンであるということは、週に1度例会に出席するよりも、ずっと大きな責任です。それは、独特な方法で、世界を見ること、そして、その世界における自分の役割を見つけることです。地域社会の問題を自分自身の責任として受け止め、それに基づいて行動し、イニシアチブを発揮し、最前の努力をすること、簡単な道ではなく、正しい道を歩むことを意味します。」

ここにロータリアンとしての自覚と責任が述べられていると思いますので、皆様もう一度ロータリーの友を読んで頂けたらと思います。

ここで夏の俳句を一句、私の先生の作品ですがご紹介致します。

「握手いずれも 大きい手ばかり 泉湧く」

泉とは夏の季語で、泉が湧くということ、生命力があるという感じになります。そして握手、色々な人と握手したならば、皆大きい手ばかり、皆先輩のような人たちばかりという意味だと思っておりますが、今年は暑い夏が続きますが、ロータリーに、そして色々な会合に出席致しまして、会った人たちが皆、自分にとっては学ぶべき方たちだと思、その人たちとの交流を通して泉が湧くような今年の一年間を過ごしたいと思っております。

私はチャーターメンバーでしたので、ロータリーに入りまして今年で21年目となります。最初は一番若かったせいか、いつも後ろの方で先輩の姿ばかりを見ていたのですが、だんだん前の方へできるようになり、21年目にしてとうとう会長に推薦され、もっと勉強しておけばよかったと今更恥じております。今年も会員を増強し35の大台になれば良いと考えておりますが、これには会員増強の担当委員長さん、会員の皆様のご協力が必要となります。会員を増やして充実した狭山中央ロータリークラブの活動ができるようにしていきたいと思っております。

これからクラブ協議会を開催致しますが、各担当の委員長様には、今年一年間の行事に対する抱負と継続事業の方向等お話しして頂きますが、中井ガバナー、室伏ガバナー補佐様のご指導を頂きまして、中央ロータリークラブの活動が地区に認められるような方向に向かっていければと思っております。宜しくお願い致します。

幹事報告

宮野幹事

(定例理事会)次の件が審議・承認されました。

- (1) 8・9月プログラム承認
- (2) 協賛金について

入間川七夕まつりは協賛
灯の川 2013 は見送り

- (3) 20周年記念パーティーの月信掲載について

(4) CATV 20周年の座談会放送承認

1. 2016～2017年度ガバナー推薦について
2. 前ガバナー鈴木秀憲様よりのお礼文について

「外来卓話」・・・・・・・・・・

国際ロータリー第2570地区
ガバナー 中井眞一郎様



本日はガバナー公式訪問ということで、まずお詫びを申し上げたいと思っております。実は2月のPETSの際にある方から、狭山市内で3クラブ合同のガバナー公式訪問をしたいというお申し出を頂きました。そしてそのお申し出を受け、なおかつ7月も出来るだけ早くというご要望であったので、親クラブである狭山ロータリーさんの通常例会日である金曜日、また7月の早い時期ということで、本日の設定をさせて頂きました。しかし、通常例会が火曜日の狭山中央ロータリーさんに金曜日とご譲歩して頂いたにも関わらず、結果に於いて、市内3クラブでの合同例会ではなく、狭山中央さんだけの例会となってしまうまいりました。色々ご迷惑をお掛けしましたこと、お詫びさせて頂きたいと思っております。

私は実は2か月ほど前にこちらにお邪魔をさせて頂きました。その際は、ガバナーエレクトという立場でお話をさせて頂き、本日はガバナーとしてお話をする機会を得ました。大変光栄に思っております。先ほど会長さんから、昨年度6名の増員をされたと、大変すばらしい成果を伺いました。さらに今年5名という会員増強へのお話を頂き、大変力強く思っております。

国際ロータリーは、2年後に130万人にするという目標を掲げておりますし、日本のロータリーでは34地区で、実は今年の6月30日までに10万人にすると言っておりましたが、さすがにそれは達成できず、目標を先送りし、2年後に10万人という形になっております。しかし現状は8.8万人程度ですから、純増という形ですと、各クラブが10名位純増しなければ、この数字にはならないという、大変厳しい、高い目標となっております。この点、昨年のRI会長・田中作次さんは100人増やそうと思った時に、100という目標を掲げていた場合は100%達成してようやく100だ、

150という数字を目標に掲げていれば、達成率70%でも105にはなる、ということで、目標は高く、そして達成率はそれほど気にしないでいいというご方針のようです。

2770地区も田中さんがガバナーのときには、かなり拡大を致しました。随分クラブができましたが、その後どんどん合併をして、クラブ数は減っております。韓国などでも拡大に次ぐ拡大で、相当多くのクラブができましたが、その後また合併をして、どんどん減ってはおります。しかし結果において、最終的な会員増強という数字の上ではかなりの成果を上げております。増えているのは韓国や、アメリカも一時会員の減に悩んでおりましたが、Eクラブという形で今回復活し、さらに増えようとしています。今年の規定審議会のお話がありましたが、規定審議会に於きましては、とにかく会員の増強、そのためにはありとあらゆることを行う、考えられることは全て行うといった方針が打ち出されております。私が翻って考えますと、かつては一業種1人という形で、それがあつた意味ではロータリーのステータスにもなり、入会し、或いは維持するための一つの良い手段ではあったと思っておりますが、会員増強のためという訳でもないかもしれませんが、一業種5人、51人以上、60人、70人の所は1割でも良いといった形で緩和をされました。さらに、これまでは職業人の集まりであったのが、奉仕活動をする方でも良いという形で枠を広げました。一業種1人から5人へ、奉仕活動へと広がった流れが、まだ提案段階ですが、法人会員という会員を作ろうという動きもりました。これは撤回されましたためにまだ決まっております。

もう一つは、今パイロットで行っている「準会員」という制度です。会員見習いという意味に近いと思っておりますが、2年間に限って年会費は半額という形で会員の増強のために準会員という制度を設けようとしております。そして拡大という方向でいきますと、衛星クラブというものが今回認められました。仮クラブといった形でしょうか、こうした形でそれぞれのクラブが拡大と会員増強に向けて頑張りたいということが、RIの大きな流れです。

その一方で、ある意味では足かせになるかもしれない「出席」ということに関して、これを緩和しようとする動きが、規定審議会への提案段階、立法案の段階では色濃く出ておりました。一部は通りました。それは、出席と同時にクラブが決めた奉仕活動、これに参加することによって、出席と同じように扱う、12時間といった数字まで明記された上で、奉仕活動への参加が例会出席に代わるといったこともあります。一番簡単なのは、出席率の報告をしないということです。これまでクラブが年に6回や4回等といった形で制限されているものを取り払ってしまう、いつでも例会を取り消すことができるようにしようという緩和案が

随分でしたが、これらは大分否決、撤回をされております。しかしただ流れとして、これからは出席、参加というものが並び立つという方向であろうと思います。

ロータリーの基本が変わるのではないかということは、今の出席や参加というところにもありますが、もう一つは、これまでは職業人、或いは奉仕活動をする人となっておりましたのが、配偶者や子供のために仕事をしなかった人、仕事を中断した人という表現ですが、わかり易く言えば専業主婦、ないしは無職の人、この方を正会員に認めるという案が通りました。職業分類としてどうするのか、日本事務局にお尋ねしましたところ、まだわからないと言っておりましたが、職業に就いていない人を正会員として認めるということになります。これがこのまま OK になれば、ここにいらっしゃる方々の、大部分の方の配偶者の会員資格が得られるということになりますので、ある意味では倍増へのチャンスになるかと思えます。しかし 1 世帯で 2 人分の年会費を払うということに関しては、相当な負担があるかと思えますので、クラブの理事会などで、会員の平等という大きな枠に触れますけれども、2 人目は半額等といったことができるのかどうかということもあろうかと思えます。準会員はその意味では、期間限定ですが半額ということが明記されております。

このように国際ロータリーは、とにかく人を増やして欲しいという要望が強いということ、まずご報告、そしてお願いしたいと思っております。そして会員増強のために、当クラブは既に 5 名という素晴らしい成果を上げておられますが、個人的な意見では、40 名、50 名という単位というのは、例えば 50 人ですと 8 割の出席でも 40 人ということになりますので、奉仕活動にしても例会にしても、参加することに楽しみを覚えるということになるのではないかと思います。10 人、15 人の場合にはやはり厳しいものがあるかと思えますので、皆様方のためにも会員増強ということは、是非お願いしたいと思っております。これは会長、幹事、或いは増強委員長が頑張るだけではとても無理な話でありますので、会員一人一人が奉仕の機会と申しますか、この与えられた素晴らしい機会を広げて頂ければと思います。

もう一つは、寄付です。ロータリー財団は二言目には「寄付」と言っております。これはポリオプラスに致しましても、あと一息に迫った、あと 1% といったところで、これを完全に撲滅するためには多額なお金がかかります。以前にも申し上げたかと思えますが、ポリオの場合は目に見えないため、なかなか日本ではご理解を得られないところがございまして。しばらく放っておいたら、あっという間にまた元の木阿弥に戻ってしまう恐れがあるので、完全に撲滅する、あと一息が一番大変だと言われております。それにはお金が必要だということです。

2770 地区の昨年のガバナーの田中さんが、大口寄付を集める旗振り役を今年から始めました。ここでいう大口寄付とは、一度に 2.5 万ドル（日本円にして約 250 万円）を払うという大口寄付の払い方です。今まで大口寄付と言っておりましたのは、1 万ドル（約 100 万円）それも 10 年なり、20 年かけて 1 万ドルでも良く、それでメジャードナー、大口寄付者と言っておりました。引き続きメジャードナーという制度はありますが、ステージ 1 が 1 万ドル、ステージ 2 が 2.5 万ドル、ステージ 3 が 5 万ドル以上という形になっておりますが、それとは別枠で、いきなり 2.5 万ドル払えということも含めて努力をするということでありまして。いずれ地区の財団委員会から皆様にお願ひがあるかと思ひますが、今検討していることは、各クラブで 1 人メジャードナーを出して欲しいということ、当地区としてもお願いしようという動きでございます。ここで言うメジャードナーとは累積で 1 万ドル、およそ累積で 100 万円を、一クラブ 1 人出して欲しいということでございます。

ロン D.バードン氏は、人に物を頼むときはまず自分が寄付しろと言っておられますので、私もやむを得ず、この 7 月にメジャードナーになることはさせて頂きました。このような形でまず自分でやったうえで、次はバストガバナーをお願いをし、その次は地区幹事の方々に、そしてガバナー補佐をお願いしようというように、順次お願いする方を絞ったうえで、やっていきますが、一般の会員の方々にも財団の目標である数字、これにつきましては協力頂きたいと思っております。私からお願いするのは、地区の財団委員会が目標にしている数字と別枠、外枠でメジャードナーを作っていこうということでございます。

国際ロータリーの方は人を集めること、会員増強と、そしてその結果がどうかはわかりませんが、寄付金を集めることが先行しております。奉仕活動をするということも勿論必要で、楽しみながらやって頂きたいということでございます。こういうお話をしていると、だんだんとガバナーはただ増強と金集めばかり言っているという話になりますが、職責上ということで、お許し頂きたいと思っております。

そして皆様方をお願いしたいと思っているのは、クラブ協議会というものは、私が知っている範囲では、あまり活発なことが成されていないのではないか、活発でないという意味は、年度の初めにその年の事業計画の発表、年度の途中で報告、或いは下半期への抱負ということに終始して、例えば今問題にさせて頂いた、専業主婦を会員として認めるということに関して、賛成か反対かといった議論、或いは今年の 2 月までという限定ではありましたが、規定審議会に出された色々な案、例えば私が何回か言って怒られておられますが、2 年間会員数が 25 人未満のクラブはガバナーが強制的に合併させる、或いはガバナーノミニーは地

区の平均会員数、当地区の場合は33~34人ですが、それ以上のクラブからしか出せない、会員が25人未満のクラブは、地区大会での投票権がない、こうした案に対して賛成か反対かをクラブ協議会で議論し、その上でその賛否の意見を国際ロータリーに提出するといったことを、果たしてどの程度のクラブがなされたのだろうか、ということに対して疑問を持っております。

今年の規定審議会に關しての賛否の意見は、2月21日までに出さなければなりません。今決まりました専業主婦を正会員にというものは8月23日が締め切りです。まだ1ヶ月程日にちがありますので、反対ということであれば、クラブとして決定をして頂いた上で、クラブのR I事務局に反対という申し入れをして頂く必要があります。世界各国から5%反対の意見があれば、その後投票に付されます。その結果反対が多ければ、この案はなかったこととなります。よし悪しは別として、一つの例として申し上げましたので、これまで採決されました多くの案に關しまして、反対の意見を言う機会がございますので、活用して頂きたいと思っております。

もう一つは、出された案、採択された案に対する反対ということではなく、積極的にクラブ、或いは地区が、次回の規定審議会にR Iの方針はどうも曲がっている、このままではロータリーの強みを失うことになるということであれば、それに向けた提案をクラブでして頂きたいと思っております。クラブで提案した場合には地区大会での承認が必要です。地区大会で承認されて初めてR Iに出せることになっております。本年度からはその決議をする機会が、これまでは地区大会だけでしたが、地区決議会合といいたまいますか、新しくR Iに物を言うための決議をする会合ができることになりました。積極的にご活用頂きたいと思っております。地区大会が例えば4月であった場合、地区大会でしか承認ができないと間に合わないこととなりますので、決議のための会合ができるようになったということで、積極的にR Iに対して、日本から見れば好ましくない方向だというときには、この中でワイワイ言っているのではなく、きちんと物を言うということを考えて頂きたく、それには何と言ってもまず理事会だけで決めるわけにはいきませんから、クラブ協議会を活用して頂きたいということをお願いさせて頂こうと思っております。

本日、実はクラブ協議会についてお願いを致しました。お願いをしましたのは、本来であれば私が希望しておりますことは、会員増強や寄付金集めに関してそう簡単にはいかないというご意見も含めて、クラブ協議会等で忌憚のないご意見を伺いたいということが一つ、そして先ほどの様な前向きなご提案も頂きたいということで、クラブ協議会の在り方もご検討頂ければと思っております。

お願いばかりで恐縮ですが、今後のクラブ運営

にあたって、紙にかいてあるものを発表するのではなく、ご自分の意見を、それぞれ新しく入られた方も、ベテランの方も、自由に言えるようなクラブ協議会をして頂きたいと思っております。

そしてもう一つお詫びと致しまして、私の年度から色々な冊子を発行致しません。地区大会、地区協議会に關しましても、案内のパンフレットも報告書も出しておりません。ガバナー月信も皆様方に冊子にしてお配りするというのを致しておりません。ガバナー月信に關しましては、会長・幹事にメールを差し上げることでお終いということにさせて頂いておりますので、色々ご不便・ご迷惑をお掛け致しますが、その分地区の分担金を28,200円から20,000円に減額致しましたので、減額に免じてお許し頂ければと思っております。

なお、R Iの方も色々な書類は、メールで送り、冊子にすることはないという大きな方向性がでております。しかし手続き要覧だけは日本事務局が今年の12月頃に、今回の規定審議会の結果や反対意見を踏まえて、新しいものを発行する予定です。

当クラブの定款細則は先ほど拝見して、色々意見を申し上げましたが、次年度の事業計画書に掲げられる定款細則から、2013年の手続要覧に沿った文言にして頂き、そして運用は今年決まった通りにさせて頂きたいと思っております。宜しくお願ひ申し上げます。

・・・クラブ協議会・・・

司会進行 栗原(憲)会長

【委員長発表】

クラブ管理運営委員会

クラブ管理運営委員長

小島美恵子

クラブ管理運営委員会では、効果的なクラブ運営を心掛け、地域社会への奉仕及び会員の維持を目的に、会員奉仕の充実した会の運営を目指しますということで、毎回の例会が皆様にとって、充実した会になるように、夜会例会等も含め、家族の親睦も交えつつ、一年間楽しいクラブを心掛けて努力をしたいと思っております。

プログラム委員長

益子信明

R I会長のロン D.バートン氏が2013~2014年度のテーマとして、会長から私たちへのチャレンジを、「ロータリーを实践し、みんなに豊かな人生を」と言っておられます。会員増強維持、会員及び家族との親睦活動、知識拡大や卓話等、毎週行われる例会が豊かな人生となるべく、プログラムを实践して行きます。各委員会の皆様との密なる連絡が必須となりますので、ご指導ご協力の程、宜しくお願ひ致します。

なお、年度計画書の44頁、45頁には今年のプログラムの案としてスケジュールだけ載っており

ます、未だ卓話の部分がほぼ空いている状態で、会員卓話、外来卓話等ご協力頂きたいと思いますので、宜しくお願い致します。

クラブ公共イメージ委員長代理 田中八束

ロータリークラブとは何か？何をするクラブなのか？どんな人が活躍しているのか？といったように、ロータリークラブを十分に理解していない市民の皆さんは沢山あります。会員増強のためにも、自分達の存在をもっと世間に知って頂かなければなりません。ロータリークラブは奉仕を使命とする世界的な団体であり、自分たちの生業を元に、世界平和と人々の幸福を追求する組織で、地域の社会的なリーダーが中心となってそれぞれのクラブが組織されていること、また実際の活動の内容はその都度ケーブルテレビや市の広報誌等を通じてお知らせし、皆さんに知って頂こうと思えます。私たちが開催する公開講演会や蚤の市には、一人でも多くの方々にご参加を呼びかけ、同時に近隣の行事には積極的に参加をしていきたいと思えます。以上が委員長のお言葉です。

2011年だったと思いますが、仙台で行われましたゾーン会議に出席し、その時にクラブの公共イメージというものが、ロータリーの方から初めて大々的に打ち出されました。折しもその時、東北大震災の年でございます、ちょうど私は大震災が終わった後に会議に行ったわけですが、特に大震災に合わせまして、ロータリーの公共性を、また先日シェルターボックスの話が出たかと思えますが、シェルターボックスとはロータリークラブとは違うイギリスに本部のある組織が運営しております。一人で動かすのは大変な大きな箱となりますが、このボックスには約15人が収容できるテントが入っており、テントの中には燃料や食料が入っておりませんが、毛布やグランドシート、その他に食器等が入っております。そしてそのボックスの蓋がベビーベッドになったり、子供が飽きてしまった時のためにぬり絵等が入っている等非常に心温まるボックスです。このボックスは11日に震災が起こった4日後15日には、世界から東北の地域に届いておりまして、当時日本のロータリーから2000箱要求いたしました、およそ1760箱を配布致しました。日本は震災の地域が一部だったので、そのテントが無ければならないということはありませんでしたが、大きな体育館等でプライバシーの確保に使われました。そこには大きなロータリーのマークが入っており、震災の時には非常にロータリーの公共性が高まりました。そうしたことから、公共イメージの向上をロータリーから強く打ち出され、そのことに関しては皆様の認識を新たにして、公共イメージということをご皆さんが改めて認識をしたということでございます。当クラブに於きましても、是非このようなことを皆さんにお伝えし、色々な地域の活動で公共イメージをアップさせ、世の中に認められるよう

なクラブにしていきたいと思っております。

会員増強委員長

古谷 博

今年度もR Iの会長は増強を非常に目指しており、そして増強と寄付とあるようですが、確かに増強というのは、色々な会がだんだんと人数が減っている状態で、色々な団体になかなか若い人が入ってこないということで、特にロータリーでもクラブの運営上、そして財政面に於いても、活性化したり若返ったり、新しいエネルギーやアイデアを取り入れるには、できれば若い方々に入会をして頂かなければならないかと思っております。今年も栗原会長と宮野幹事が一年間頑張ってくれると思えます。そして何にしても昨年は6名の増強を致しましたので、今年も昨年と同じように5名位は何とか増強したいと思っております。しかし先ほどのガバナーのお話にもありましたが、これは一人ではなかなか達成できず、それぞれ会員一人一人が会員増強という認識を如何に高めて持って頂くかということが、ポイントになるのではないかと思っております。

私の考え方と致しましては、女性の会員の拡大をもっとして頂ければ、より活性化するのではないかと、そしてそれにつれて男性も入ってくるのではないかと思っております。女性の方々には是非、友達等に声を掛けて頂き、もっと活性化し、楽しいクラブになれば良いと思っております。その方法と致しまして、色々な交流、ゴルフ会や公開の講演会、親睦会の時になるべくお呼びし、入会の機会やチャンスがつかめれば良いのではないかと思います。楽しいクラブを目指して、できるだけ5名に近づきたいと思っております。

また寄付のお話もでしたが、私個人的には、あまり寄付の話を言ってしまうと新入会員が入り難くなってしまうのではないかと懸念をされており、このところはあまり言わない方が良いのではないかと思います。そして私もロータリーの歴史は長いのですが、昔を振り返ってみますと、やはり職業奉仕を前面に出しておりましたが、いつの間にか職業奉仕よりも寄付となり、何の団体もお金を持っているところは力が強くなり、そちらに主導権がいつてしまうということがあるかと思えます。最近の財団とR Iとの関係、財団の力が非常に強くなってきているのではと、個人的な想像ですが、感じております。中井ガバナーにはそうしたところも少し押し頂き、寄付が目的なのか、職業奉仕が目的なのかが分らなくなってしまう時もありますので、こうしたことも含めてお願いしたいと思っております。

奉仕プロジェクト

奉仕プロジェクト委員長

栗原成実

35頁に本年度の事業計画が載っておりますが、この奉仕プロジェクト委員会は、中に4つの別の委員会がありまして、36頁、37頁に書いてあり

ますが、国際奉仕は後程若松さんが報告されると
思いますが、中身につきましては読んで頂ければ
わかることですので、割愛させていただきます。むし
ろ私が申し上げたいのは、米山奨学のこととして、
これは委員会がありますが、主に中国、韓国の学
生が非常に多いのにも関わらず、今の状況は、特
に政治について、日本に対しての反日感情が改善
されておらず、この米山奨学生は長きに亘って支
援してきたのにも関わらず、どうも私としては不
満でございます。一方、今の日本に於かれまして
は、非常に貧しい中学生、高校生が沢山おられま
して、高度な教育を受けられない子供たちがおり
ます。こうしたことを一度、一つのクラブではな
かなかできないことですので、地区として、或い
は日本として、本当に米山奨学というのは外国人
を対象にして良いのか、ある意味では日本人も救
うべきなのではないかと考えております。ガバナ
ーに於かれましては、後程ご意見を賜りたいと思
っております。

もう一つ、ロータリーの社会認知度の低さにつ
いて、私のお客さんや知り合いにロータリーの話
しをして、ロータリーを理解している人はなか
なかりません。これだけ私たちは色々な意味で
寄付をしたり、個別に震災や海外に対して支援し
ているのにも関わらず、意外と知っている人がお
りません。ロータリーはもっともっと地域だけ
ではなく、上の組織の方から、メディアに露出す
べきだと思っております。それが結局ロータリー
の理解を深め、会員増強につながるのではないかと
確信しております。

最後に、中井ガバナーのおっしゃっている印刷
物の廃止に関しましては、大賛成でございます。
奉仕プロジェクトとは全く違った内容で報告致
しましたが、各委員会の中身につきましては、要約
したものと大差ないと思っておりますので、ご理解願
いたいと思っております。

国際奉仕委員長

若松泰誼

我々のクラブでは以前に、ネパールに学校の校
舎を寄付しようとして実施を致しましたが、これに非
常に満足感がありました。そしてちょうど 4 期前
から、その頃モンゴルの米山奨学生をお預かりし
ていた関係もありまして、当時の駐日モンゴル大
使のジグジットさんに卓話に来て頂き、その時に
植樹をして欲しいとの話がございました。そして
干ばつ防止の対策として、モンゴル国に植樹をし
ようという企画を 4 期前に致しました。

我々のクラブだけで行うには、当然資金的に限
界がありますので、マッチング・グラントによる
資金の調達をしようと、昨年本格的に動きまして、
これもやっと、当初の予算よりはだいぶ減りまし
たが、10,790\$ という大きなお金を支援して頂く
ことになりました。当初は我々 3 年間計画で行っ
ておりましたが、マッチング・グラントが完成す
ると、それから 3 年間ということ、これまで 2

年行っておりますので、トータル 5 年間の支援を
しようと進んでおります。昨年その 1 回目として、
会員さんと会員の奥様方の協力を頂き、26 名でモ
ンゴルに行き、植樹をしてまいりました。約 380
本植樹を致しましたが、1 年経ちまして、今季ま
た 4 名で行ってまいりました。これは実は今期の
計画なのですが、モンゴルの気候が 6~8 月とい
う非常に短い期間の中でしか植樹をする機会がない
ということ、その中でも少し早い 6 月に、栗原会
長の許可を頂き、今年度の計画分として実施して
きました。しかし 6 月でも遅く、5 月が良いとい
うことで、今回は少し早めた方が良いでしょう。
これは自然の問題なので仕方がありませんが、昨
年 380 本植えたうちの 300 本が生存してありま
して、成功が約 80% でした。80% という数字はす
ごくいいと思います。1 年目の結果としては大成功
ということで、今年も 300 本植樹をしてきました
が、来年からは支援がもう少し増えますので、本数
を増やしていけるという計画になると思っております。

モンゴルのフレロータリークラブとマッチング
を行っているわけですが、先日 4 名で行った時
には、マッチング・グラントを進めるにあたって我
々きちんと意志を伝えようと、フレロータリーク
ラブの方と打ち合わせを致しました。しかし、なん
と恥ずかしいことに我々よりもはるかに詳しく、
フレロータリーに入っている人たちとはモンゴル
でも代表される優秀な方たちが多く、逆に教えて
頂いたということが多くあり、あまり余計なこ
とを言わなくて良かったということを感じながら
おりました。日本とモンゴルはこれから非常に大
切な友好国となっていきますので、そうした意味
で狭山中央ロータリークラブの植樹の活動が、ロー
タリーの活動として評価されることになれば素晴
らしいと感じているところでございます。今年か
らマッチング・グラントも頂けることになりました
ので、今後 3 年間、本腰を入れて、真剣にしっ
かりと取り組んで参ろうと考えております。

ロータリー財団委員長

柴田 譲

財団はクラブから見ると、どうしても距離が
遠いと言いますか、近づけないような雰囲気があ
ると、私も入って 17 年目になりますが、そう思
っておりました。通年必ず寄付を出して、色々
と事業も取り組んで行っているということ、全
体として聞いてはありましたが、なかなかチャン
スがありませんでした。一方、私共は今国際奉
仕委員長のお話にあったように、昨年 2 月 11 日
と記憶しておりますが、なんとか補助金を活用
できないだろうかという思いで、以前ロータリー
財団日本支局に務めておられました片岡さんが
ご出席の下でのセミナーに参加した時に、マ
ッチング・グラントの提案がございまして、
18,000\$ 位であればちょうど規模があ
うのではないかという示唆があり、それ以後
手続等に走っていったわけでございます。し
かしなかなかできないもので、大変苦慮

致しました。この計画書を作る段階、6月4日でしたが、その時点ではまだまだ行けるとい確信はできておりませんでした。幸いその2週間後に日本支局の井関さんから行けるとい話を頂きまして、やれやれといった感じでした。

当然指導を受けました関係で、18,000\$位を要望しておりましたが、10,699\$に収まりました。これは日本支局のデータベースに載っておりまして、まだ私どものクラブにはロータリー財団本部からの認証のメールは届いておりません。その理由は、恐らく向こうが夏休みだからという話でございました。

今年度からロータリー財団と致しましては、夢計画というものがございます。昨年この話のためにセミナーが組まれましたが、私どもはマッチング・グラントの方に走りました。他方、今年度から正に夢計画は実施の段階となります。今私が悶々たる思いしておりますのは、財団のクラブの委員長になった時には3年間継続しなさいということ、言われたと記憶しております。ならば今年度何らかの案件を用意し、来年度申請し、3年目に実施に入るといストーリーのようですが、その辺がどのように展開するかわかりませんが、近々何らかのセミナーがあるのではないかと考えておりますので、具体化に取り組んでいきたいと考えております。できたらこのモンゴルの干ばつ防止制度を更に補強したいという意味での、夢計画ができれば有り難いと考えております。しっかりとクラブのために、ロータリークラブに入って良かったと言える人生にしたいと思っております。

最後に中井ガバナーに一つ注文がございます。せっかく今年度、地区大会等の経費削減で頑張っているのですから、願わくば、継続できないだろうかということ。ガバナーさんは単年度ですので、それで終わってしまうのではと一方で感じております。できましたら、関係者との意見交換をしながら、できるだけその方向に向かって頂けたらという思いでございます。

米山記念奨学委員長

中谷和美

私は前年度会員増強委員長をしております、10名目標に、会で一丸となって取り組みました。ところが残念ながら6名ということで、4名足りませんでしたので、今年ももう一度、増強委員長をやって目標を達成したいと思っておりましたが、今年度は米山委員長ということで、頑張らせて頂きます。

先週の土曜日に、クラブの4名と一緒に地区の米山セミナーに出席し、色々話を聞いてまいりました。それによりまして、米山の寄付金の減少に伴い、今年度より事業規模の見直しが図られ、奨学生の数が昨年より100名減の700名に縮減されたということでした。この寄付金の減少の原因は色々あるかと思っておりますが、第一に考えられる

のは会員の減少です。また特定の国に留学生が偏っているところ、これは見逃せません。各大学の選考の過程で偏らないように配慮をしていると聞いてはおりますが、これはまだまだ不十分であると思います。この辺をもう少し考慮して頂かなければ、寄付金がなかなか集まってこないのではないかと、私自身思っております。

現在の国際情勢、中国・韓国・日本の関係ですが、これを考えたら、米山と直接は関係ありませんが、日本人の心情的に割り切れないものを感じております。この気持ちは私だけではなく、我々のクラブの中でもこうした意見の方もいらっしゃいますので、ガバナーのお考えをお伺いしたいと思っております。しかし米山の奨学記念事業は、ロータリーが世界に誇る事業ですので、ロータリーアン全てが協力して、事業を推進していかなければならないと思っております。それには各クラブの米山に対する理解が欠かせないと思っております。我々のクラブも米山にはかなり力を入れておりまして、地区の委員さんもおられますし、メジャーの方でも2名位おられます。そして毎年奨学生も受け入れており、今年度も韓国の学生を2年継続してお世話をしているわけです。

米山に関しては一生懸命行っておりますが、寄付金の問題になりますと、なかなか皆さんに言いづらい所もあります。しかし私も役目ですので、いろいろと対応していかなければならないと思っておりますが、前年度の柴田委員長が随分と努力をされまして、個人の平均の寄付額が、地区内では、非常に上位の実績を上げております。私も今年度もそれに負けないように、引き続き努力をしてまいりたいと思っております。

年度計画書には、特別寄付として3名以上と謳いました。現在、色々とお話をさせて頂き、4~5名の方から寄付の承諾を得ております。また今年9月には、米山関係で米山学友会の会長さん、そして10月の米山月間にはモンゴルの奨学生の卓話と予定しておりますので、この卓話を通してクラブの皆さんに米山の理解を深めて頂ければ宜しいかと思っております。

『ガバナー講評』

まず財団の関係ですが、つい先日事務局から、本年度分として約576万円、地区の指定口座に7月11日に振り込んだという通知が参りました。地区の口座の確認を、高橋地区幹事、或いは松本財団委員長をお願いしております。今のマッチング・グラントも含めて、順次進むであろうと思っております。

米山に関しましては、7月13日にセミナーがございました。そこへガバナーとして言って良いのかと思いつつも、今皆さんが言われたような事柄は、冒頭の挨拶で述べました。米山に関しては、逆風という言い方をさせて頂いて、今の留学生、奨学生が偏っているという問題、かつ大学、大学

院生という高等教育のための補助であるという点、日本の大震災の他、私は念のため交通遺児や自殺した方の遺児等も含めて、日本人の子女で、義務教育はどうにかかりますが、準義務教育の高等学校の進学がままならない子供たちが一方で沢山いるという、この問題との兼ね合いでどうなのかという質問は投げかけさせて頂いております。その上で、そうした状況だからこそ、これまで来た中国、韓国、台湾の方々の中でも、日本に対する支援というものが、一方ではあるという状況もありまして、日韓親善会議も含めて、政治、外交に囚われないロータリーの良さということで、この逆風の中で、かつ高額な寄付であるがゆえに優秀な人材が集まるということもあります。奨学生の中には、今の14万円を減らして、極端なことを言えば、7万円にして、倍の数にしたらどうかという意見も、奨学生の中からも出ています。そこでもやはり、14万円、或いは10万円であるからこそ、優秀な人材が集まるのだという意見も出ており、それぞれに今検討をしております。申し上げられることは、ただ手をこまねいているだけではなく、米山の記念財団も、それぞれ検討しながら行っているということです。しかし数字として言いますと、減っていると言いましても、日本のロータリー財団への寄付額は、年額約13億円、米山は13億円ちょっとでこれを上回っており、僅差ですが米山の方が多いのです。そうした点ではかなりの金額を集めておりますので、委員会の透明性を問われているのだらうと思います。

もう一つ、ついでお願ひしましたことは、日本には「金の切れ目が縁の切れ目」といった感じに、米山奨学生の中には、奨学金がもらえなくなった途端音信不通になってしまう人が多いということで、これは困るということも、一応伝えまして、その一つのツッカ工棒と致しまして、米山の学友でEクラブができないかと、東京には出来ておりますので、Eクラブを作ることも委員長さんをお願いをしております。その学友会を中心にした形で、米山の立て直しをして頂きたいということも、地区としてはお願いしているところです。

公共イメージに関しましては、地下鉄の駅や大塚駅、或いは金沢城等で、それぞれライトアップの様な形で、また電子掲示板等で、ロータリーの宣伝も行っておりますが、どうしても一過性で、イメージが上がるという訳にはなかなかいきません。ライオンズクラブと比べると、ライオンズは団体で奉仕活動をするということが、どちらかというと前面に出ていることに対し、ロータリーは個人個人が職業奉仕をしながら頑張るといふかたちがどうも出ていて、団体性に於いて、やや欠ける場所があったということ、先ほどのお話ではないですが、ロータリーは何かと色々説明した挙句、ライオンズのようなものですかといった話まで出てくる訳ですから、本来ならばロータリーからライオンズが出来たにも関わらず、一般的には

ライオンズのようなものという受け止め方も少なくありません。これを逆転しなければいけないと思っております。しかし一朝一夕にはできませんので、地道な活動でやっていくしかないと思っております。

なお、この機会に申し上げておきますが、ロータリーのバッジの使い方に関して、繰り返し注意が出されております。これはバッジの歯車がデザイン上の観点から、印刷物やホームページの透かしとして使用することが多いのですが、このバッジの上に文字を置いたり、或いは歯車が欠けては困るとこのことです。ある地区大会のパンフレットは、歯車が上の方にあつたため、一部欠けておりました。透かしの為、その上に文字、「2012~2013年度、地区大会」という文字がのってしまっていた、パンフレットが三つ折りになっていたために、歯車が2つにわれてしまう、さらには濃い色の下にあつたために見にくかつたというようなことがありますので、この歯車の使い方に関しては、お気を付け頂きたいと思ひます。

ネパールの寺子屋からモンゴルに拡大をされまして、今モンゴルで国際奉仕委員会を中心に頑張っておられること、大変素晴らしいと思ひます。頑張りついでに、会長賞というものがございまして、この会長賞等は条件が3つございまして、一つは会員増強の推進、入会希望者を少なくとも一人増やす、もう一つは充填、財団を通じた人道的奉仕の充実、今のモンゴルの事業はこちらに該当致します。増強した上でこちらを行い、さらにロータリーファミリーを通じたネットワークの強化、簡単に言えば、全てのクラブの会員と家族が参加することが必要ということで、最低条件として3項目ありますが、会員増強を1名行って頂ければ、このモンゴルの事業は、今年の会長賞の候補になると思ひます。そうした点では、会長賞を目指して頑張りたいと思ひます。詳しくはパンフレットがございまして、地区事務所にお尋ね下されば、同じ頑張るにしても、RI会長賞を頑張りたいと思ひます。クラブとしてもやりがいがあるのではないかとと思ひます。

このクラブがそれぞれお話になつた内容で、一年間、ご活躍頂ければと思ひます。継続という観点に関しましては、私自身も継続したいのはやまやまですが、これは次年度以降の坂本さん、高柳さんといった方々とよく連携を取り、3年制という形で頑張りたいとおもっております。坂本さんにも高柳さんにも、私から資料はお渡ししており、ご考慮は頂けませんが、現実はどうされるかは分かりません。今年行つてみて、良い所は継続して頂けるし、どうかと思ふことは止める、これは1年制の良い所でもございまして、坂本さん、高柳さんに引き継いで頂ければと思ひます。



栗原(憲)君 第 2570 地区ガバナー中井眞一郎様、ガバナー補佐室伏秀樹様、地区副幹事細野達男様、ようこそお出で下さいました。ご指導よろしくお願い致します。

宮野君 中井ガバナー様、室伏ガバナー補佐様、細野副幹事様、ようこそお出で頂きました。本日は念入りに化粧して参りました。ご指導よろしくお願ひします。

江原君 中井ガバナー、室伏ガバナー補佐、本日はようこそお越し下さいました。今日一日、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

稲見君 中井眞一郎ガバナーようこそお出で下さいました。今日一日、ご指導よろしくお願ひします。
室伏ガバナー補佐、今週 2 回、お疲れ様です。よろしくお願ひします。

栗原(成)君 中井ガバナー、室伏ガバナー補佐、細野地区副幹事様、公式訪問ありがとうございます。

中谷君 第 2570 地区ガバナー中井眞一郎様、ガバナー補佐室伏秀樹様、本日は当クラブへ公式訪問ありがとうございます。ご指導よろしくお願ひします。

美女軍団 中井ガバナー、室伏ガバナー補佐、細野地区副幹事、ようこそお出で頂きました。ご指導よろしくお願ひ致します。



次の例会
8月20日(火) 例会臨時変更
家族同伴納涼夜間例会
点鐘 午後 6 時半
会場 喜代川